

時代の変化に対応した栄典の授与に関する有識者懇談会（第1回）  
議事要旨

■開催日時：平成28年2月10日(水)17:15～18:35

■開催場所：官邸3階南会議室

■出席有識者：

山下座長、奥山有識者、滝澤有識者、谷口有識者、名和田有識者、萩原有識者、牧原有識者

■政府側出席者：

菅 内閣官房長官、松本 内閣府副大臣、酒井 内閣府大臣政務官、松山 内閣府事務次官、河内 内閣府大臣官房長、幸田 内閣府賞勲局長、淵上 総務省自治行政局長

■議事次第：

- 1 懇談会の運営について
- 2 検討すべき論点と検討の進め方について
- 3 地域における活躍について

■議事概要：

冒頭、菅官房長官より開会の挨拶。その後各出席者から自己紹介。

### 1 懇談会の運営について

資料1及び資料2に基づき賞勲局長より説明があり、資料2は原案どおり決定。その後山下座長より、座長代理として牧原委員を指名。

### 2 検討すべき論点の検討の進め方について

資料3に基づき賞勲局長より説明があり、有識者で議論。主な発言は以下のとおり。

- 地域での活躍をどう捉えるか。長年、地域を支える立場で団体の長を務めた方も大事だが、短くても新しいまちづくり等を進めてくれた方も大事。まちづくり、環境、草の根の国際交流などに取り組みられた方々を、どう栄典に組み込んでいくか。
- 女性の受章者を増やしていくことが大事。団体の長をやっていた叙勲対象年齢の方は女性では非常に少ないので、縁の下で頑張っている人に光を当てていくことが必要。
- 中小企業は多種多様で、社によって大きく異なる。その中で、どう功績の大

きい中小企業を選んで評価していくか。きちんと選べば経済活動の活性化にもなる。

- NPO活動を評価する際、団体を評価するか、長を評価するのか。また、活動の長さを評価するのが良いことなのか難しい。
- 教育、児童福祉、地域活性化等様々な分野で地道に活動している公益法人も多い。もう少し光があたるとよい。
- 一般推薦の広報が大事。地方紙も含めて集中的に出していくべき。
- 我が国の栄典は、天皇陛下から授与されるところが、国際的に見て際立っている。外国人叙勲を考える際にその点も考慮に入れるべき。

### 3 地域における活躍について

資料4に基づき賞勲局長より、資料5に基づき総務省自治行政局長より、資料6に基づき奥山有識者より、それぞれ説明があり、有識者で議論。主な発言は以下のとおり。

- 各大臣表彰の過去の表彰団体をフォローしていく中で、継続的に活動しているところを評価していけば良いのではないか。
- NPOの活動は、じっくり活動を見ていくことも大事。
- 自治会長等は、経歴が長ければ良いというものではない。一方で行政の立場に立てば、例えば会長歴10年の人と会長歴8年の人が居た時に8年の人を推薦するのはなかなか難しい。例えば、地域における他の功績と合わせ技で評価できる仕組みができないか。地方自治が健全に行われている地域では、地域の様々な人材が様々な役目を負いながら育成されていく流れができており、そういった現実とも合う。
- これまでの定量的尺度での評価を、どう定性的尺度に変えていくか。ただし栄典というのは現行の運用を念頭に期待している方々もおり、漸進主義で行くべきである。その上で、どちらの方向に変えていくか、大きな方向性についてはしっかり議論すべき。
- 変えるからには主導理念が要る。日本の大きな課題は人口減少。若い人や女性をどう励ますことができるかを、改革の理念とすべき。栄典とは地方の顔役、70代の人のもので自分たちと無縁と思われているのではないか。
- 地域での活躍を評価する際、何年間継続したというストック的な評価と、ある期間に大きな活躍をしたというフロー的な評価があると思うが、フロー的な評価としては、各省の政策方針と合致していたかどうかというところを見ればよいのではないかと思われる。その意味で各種の大臣表彰を活用していくのは妥当だと思う。

注：本議事要旨は速報的に作成したものであり、  
表現の正確性向上等のため、今後、修正される可能性があります。